

健康長寿
ふくしま
会議

健康経営ふくしまトップ会談

優良事業所表彰受賞3社と内堀知事 全県への波及誓う



左から桑原氏、内堀知事、鷲尾氏、利根川氏

健康長寿県へ 取り組み推進



福島県は全国に誇れる「健康長寿県」を目指しています。本県の健康指標は全国ワーストクラスのものが多いのが現実です。例えば、メタボリック症候群の該当者の割合は全国ワースト4位、喫煙率はワースト3位となっています。

内堀 雅雄 知事

そのためには、働き盛りの世代に時間を過す職場で生活習慣病の予防に取り組むことが大切であり、健康意識を高めるために事業所や企業、工場、店舗などで経営者を含めて、「健康が大事なんだよ」と言い続けていただくことが何よりも重要です。

県では、健康経営に取り組んでいるトップランナーの皆さんを表彰し、光を当てることによって、他の企業にも頑張っていたことになつたという考えがあります。そのために「ふくしま健康経営優良事業所認定・表彰制度」を推進しています。

健康経営の取り組みを地元新聞社や全国健康保険協会（協会けんぽ）福島支部などと力を合わせて県全体に広げていきたいです。事業所などが健康経営に取り組むきっかけとなる動機付けを含めて、検討しなければならぬという思いを新たにしました。

2022（令和4）年度ふくしま健康経営優良事業所表彰を受けたワシオ商会（会津若松市）、桑原コンクリート工業（田村市）、利根川組（伊達市）の代表者と内堀雅雄知事による「健康経営ふくしまトップ会談」は、昨年12月23日、福島市のウェディングエルティで開かれました。各社が企業発展の基礎として従業員への健康を第一に考えた経営の大切さを共有し、全県への波及を誓い合いました。

総括

表彰を受けた3社の皆さんの取り組みには説得力がありました。なぜでしょうか。それには三つの理由があります。

一つ目は「実行」していることです。表彰を受けるだけの取り組みを実際に行っている。だからこそ、説得力があるのです。

二つ目には「工夫」があります。知恵と工夫を重ねているからこそ説得力があります。

地域と一体の健康づくり



福島民友新聞社賞
桑原コンクリート工業
代表取締役社長
桑原 義昌 氏

県内のインフラを支える一企業として東日本大震災後は復旧・復興に向けて業務が多忙となりました。その中で従業員が病気で倒れるなどしたことを踏まえ、健康経営に取り組むようになりました。社員が健康であつてこそ、質の高い製品やサービスを提供できると考えています。

血圧や血管年齢を測定できる環境を整えた他、2018（平成30年）に「健康事業所宣言」をしてからは各種セミナーを開催するなどしてきました。2019年には、使用せずに社員が各家庭で収納していた運動器具を提供してもらい、事務所内にジムスペースを設置しました。さらに田村市内の民間スポーツジムと年間契約し、休みの日でも社員が無料でトレーニングできるようにしました。

健康づくりの中でストレスがたまつてしまつては本末転倒です。簡単な取り組みをより長い期間、従業員が自ら行うことが重要だと考えます。弊社では禁煙が難しくても喫煙機会を少しでも減らすよう「減煙」を推奨しており、毎月1日を「減煙チャレンジデー」に設定しています。

インフラを支える業界は高齢化が進んでいますが、取り組みを継続しながら社員が健康に、より長く働ける環境を整えていきたいです。健康になれる職場づくりを魅力の一つとして発信し、若者世代が働きたくなる企業づくりにもつなげていきたいと考えています。

栄養に配慮した置き型の社食導入



知事賞
ワシオ商会 専務取締役
鷲尾 一美 氏

健康づくりを通して従業員一人一人に目を配り、会社経営にも反映させたいとの思いから健康経営に取り組むようになりました。弊社が20年以上前から取り組んでいる禁煙対策に関しては、成功者に商品券を贈る会社独自の「禁煙賞」を授与しています。個人での対策が難しい方には禁煙外来の受診を促し、費用も会社が負担しています。

健康診断後の対応にも力を入れています。再検査が必要な場合には検査結果や医師からの意見書を会社へ提出するよう義務化しています。再度検診を受けてもらうことで、従業員自らが「来年の検査結果に注意しよう」と思ってもらいたいと考えています。

体重、血圧測定を習慣化



福島民報社賞
利根川組 代表取締役
利根川 靖幸 氏

建設業界の人手不足や技術継承の課題が健康経営に取り組むきっかけでした。19歳から72歳まで幅広い世代の社員がいます。高齢となった先輩たちにも頑張ってもらい、技術を若い人たちに伝えてもらうと思っています。社員全員にいつまでも健康で働き続けてもらうことが、会社経営の中で最も重要だと考えています。

協会けんぽ福島支部などの情報を参考に、職場に体重計と血圧計を置き、月に1度は体重と血圧を測る習慣を身に付けてもらう取り組みを始めました。それから、少しずつ健康に関する意識が変わってきたと思います。健康診断で血圧が基準値外の社員が多かったのですが、治療中のケースを除けば、全員が正常値となりました。取り組みを始めて2年ほどですが、成果が出ていますので、今後のやる気につながってほしいです。

認定制度の普及に尽力



協会けんぽ福島支部
支部長
遠藤 隆男 氏

協会けんぽ福島支部と県が連携して始めた、ふくしま健康経営優良事業所認定制度は5年目を迎えました。今年度は279社が認定され、初年度の35社の約8倍となりました。

認定制度によって県内の健康経営への理解が深まり、取り組みを始める事業者増加のきっかけとなれば幸いです。その成果が企業価値の向上や県民の健康改善にもつながるものと信じ、今後も普及に努めて参ります。

持続可能な長寿社会を構築する取り組み



東京大学
未来ビジョン研究センター
特任教授
健康経営推進部部長
古井 祐司 氏

今回のふくしま健康経営優良事業所認定では、新型コロナウイルス感染症にも対応した企業の皆さんの工夫が目立ちました。社員の体調確認をはじめ、オンラインを導入した職場ではコミュニケーションの取り方も一変し、職場の環境づくりがこれまで以上に気遣われたことがうかがえます。日頃からの健康づくりの重要性を認識する機会にもなったと思います。また昨年度に続き、今年度も多くの企業で取り組んだ結果が数値で示されています。

側は客観的に評価ができ、効果的な取り組みを抽出し、次に続く県内の企業にノウハウとして共有しやすいと感じました。全国でも先行して健康経営施策を進める福島県の取り組みが、持続可能な長寿社会構築のお手本としてこれからも広がっていくことを祈念します。

ふくしま健康経営優良事業所認定・表彰フロー



※【】内は例年の目安となる時期を記載しています。実際の実施時期は異なる場合があります。

健康事業所宣言及び事前審査の実施については、協会けんぽ福島支部または全国土木建築国民健康保険組合（けんぽ）で行います。

認定基準等については「ふくしま健康経営優良事業所認定実施要綱」を御覧ください。また、表彰の取扱いについては、「ふくしま健康経営優良事業所表彰要綱」及び「ふくしま健康経営優良事業所表彰に関する選考取扱い」を御覧ください。